

書陵部紀要

第 6 号

目次

陵墓参考地：鵠塚・秘塚の調査 末 永 雅 雄…(1)

上代国司制度の一考察 菊 地 康 明…(9)

摂関期における浄土思想の一考察 小 林 盛 得…(24)

——慶滋保胤について——

「奈良の歌合」の成立と伝存 橋 本 不 美 男…(34)

——奈良花林院歌合と永縁奈良房歌合と——

彙 報 (48)

正 倉 院 年 報 (50)

聖語藏本成実論卷十一 天長五年 積文稿 鈴 木 一 男…(1)

昭和31年3月

宮内庁書陵部

第五号目次 (昭和三十年三月発行)

応神・仁徳・履中三天皇陵の規模と營造……………	梅原 末治	(1)
戸籍より見た大宝前後の継嗣法……………	今江 広道	(16)
——特に庶人の嫡子について——		
北野信仰と連歌……………	伊地知鉄男	(32)
正倉院御物金工品の調査報告……………		
正倉院御物「鏡」の製作技術の研究……………	内藤 春治	(43)
正倉院御物金工品の技術的研究……………	鈴木 信一	(54)
——白銅鏡の製作工程に就いて——		
正倉院御物研究報告書……………	山脇 洋二	(60)
正倉院御物金工品の彫金的調査……………	後藤 年彦	(70)
正倉院御物の技術的調査報告書……………	三井安蘇夫	(77)
——主として鍛金(鎚起・打出)について——		
正倉院年報……………		(81)
彙報……………		(86)

編集後記

今年に聖武天皇の御遺物が東大寺正倉に収められてから丁度千二百年に当り、来る六月二十一日を期して、正倉院に於てその記念祝典が行われる。当部にとつては誠に銘記すべき年であり、この紀要も祝典当日正倉院特輯号を発行すべく、旧年来その企劃編集を進めている。それと併行してこの号の編集も進められたが、普通号にふさわしく本部・正倉院・陵墓の各関係を網羅した書陵部紀要らしい総合的な編集が出来た事は、まず喜ばしいことである。

末永博士(関西大学教授)には、昨年八月陵墓参考地薊塚・秘塚を移転した際に、その発掘調査の労を依頼したが、本号にその結果を寄稿していただいた。鈴木氏(奈良学芸大学助教授)の労作は、加点点年の判明している最古の点本である正倉院聖語藏本天長点成実論の訓み下し釈文である。これにより大矢・春日両先学すらも未開拓であつたこの語法研究も、はじめて端緒が開かれたといえよう。なお同氏のこの調査報告は、次号に続載される予定である。

菊地氏の論文は、令制国司制度と総領・按察使の制度との関係を考察したものであり、小林氏は、摂関期における浄土思想のたかまりをその典型として知識人慶滋保胤の回心を通じてみ、それが罪の意識に裏付けられている事を立論した。橋本氏は、奈良花林院歌合(基俊判)・永祿奈良房歌合(俊判)の両目で現存する院政期一歌合の、両目の歴史的な伝存をたどり、両者の関係とその成立の社会的文学的基盤を考察したものである。

そのほか、彙報・正倉院年報は昭和三十年一年間の、事業リファレンスであり、新発見資料の報告である。併せて、大方の、改むべき点の御指摘と、今後の御鞭達を願つて止まない。